

僕は憂鬱だ

池田真也

「僕は憂鬱だ」

#夜。眠れない。地球が滅亡してしまう。

ベッドから起きだして窓から外を見る。本棚からUFO関係の本を取り出して、宇宙人と交信ができるという呪文がかかれたページを開く。

少年「UFOと交信するためには

少年目をつむり大きく深呼吸したあとでつぶやく。

少年「ケルドーラ」

#学校。いじめに合う少年。

踏み切り。クラスメイト数人がもがいている少年を押さえている。

ひとりは少年の帽子を持って、遮断機の先にひっかける。通りすぎる電車。遮断機と一緒に少年の帽子も上がって行く。クラスメイトは笑いながら去っていく。少年はひとり残って遮断機をゆらししてみるのが帽子はおちない。一生懸命帽子をゆらす少年。

少年の背中に張り紙。『僕は憂鬱だ。』

#帰り道。朝鮮人の少年と自転車に乗って帰る。彼に同情的な少年。

#家。甘やかす母親。

マザコン、アブノーマルな家庭。現代の象徴。テレビが終わってしまふ。

#少年の部屋。Nゲージに夢中。

#朝。「少女に話しかけられる。」

朝の登校風景、学生達はサングラスをしている。少年は赤い学生服を着ている。

高校生の波が次々とぶつかる中、肩を丸めおどおどしながら朝の道を歩いている少年。巨体にぶつかられて彼は倒れてしまふ。

眼鏡が飛んではなじが出た。近眼のため眼鏡がどこにあるのかわからない。はいながら探しているところ、目の前に彼の眼鏡をもって立っているクラスメートの少女。会話はうまくできないが笑顔を振り撒く少女。

#学校。授業中にやにやしている少年。思い出している。それを見ていた斜め後ろのクラスメート、笑いながら指を指したり者を投げたりする。

#帰り道。彼女を待っている少年。一緒に帰る。

道路に立っている少年。住宅の陰に隠れて、鏡を見ている。

「中間テスト、どうだった」と何回も練習している少年。鏡に少女が写った。彼女が近づいてくる。彼は通りに出てゆっくり歩く。振り返らないが後ろを気にしている。

ゆっくり、ゆっくり…

彼女がおいつく。振り返る少年。

少年「中間テストどうだった」

#少年の部屋

次の朝。電車の中。ちらちらと彼女に触る。UFOは信じる？

ひとりの部屋ねむれない少年

#授業が終わった。少年は教科書をかばんにいれながら少女をちらちら見ている。彼女は友達と話をしている様子がない。彼はかばんから教科書を出してそれを机の中にしまい、再びかばんの中に戻す。そんなふうにして彼女が帰るのを待っている。

「ばいばい」友達が帰って行く。

彼女は彼に一瞥を与えた後で部屋から出て行く。かばんを置いて後

をついて行く少年。少女は階段をどこまでも歩いて行く。まるで吸い込まれるように彼女の後をついて少年は行く。

少女が立ち止まった。彼を見てほほ笑む。少年の顔に緊張が走る。彼女は振り返り教室の中に入って行く。

誰もいない教室。少年と少女。キスをするふたり。少年の肩に手を回す少女。足音近づいて来る。離れようとする少年を少女引き寄せ。いきなり自分でセーラー服を破る少女。「助けて！」と大声を出す。呆気にとられる少年。入って来る体育教師。

教師「おまえなにしてるんだ！」

少年、どうしていいかわからず窓から飛び降りる。窓の下、苦しそうにあえいでいる少年。

救急車の中、泣きじゃくる少年。

ベッドの中。不良少年と少女。少女のくわえた煙草に火をつけてやる不良少年。

少女「むかつくんのだ」